

私の名はイングリス・ユークス。
前世では世界を救い英雄王と呼ばれた男だったが、
女神によりもう一度生を受けるといふ願いを叶えられ、
絶世の美少女として新たな世界に転生を果たした。


転生した目的は勿論、武の道を極める事だ。
そしてそれ以上に、幼馴染であるラフィニア――
ラニを守る事が、この人生の目的となっている。
しかし私は、この美しい外見のため、そんな道を
簡単には歩ませて貰う事が出来なかったのだ。





今から数年前、ラリアルという男が視察に来た時の事だった。
天上人であるラリアルはその権力を振りかざし、
ビルフォードハム爵家——ラニの家の不正をでっちあげ、
その不正を黙殺する代償として、私の体を求めて来たのだ。





私が人並外れて強くても、しよせんはただの小娘だ。
私では、彼の権力の濫用を止める事は出来なかった。
私は彼の慰み者になり、彼自身と、そして魔石獣にも
犯され、女体の快楽を開発されたのだった。



その後、私はラニと共に王立騎士アカデミーに入学する。
公爵領を離れた私は、開発された女体の性欲を満たすために、
山賊を倒し逆レイプしたり、獣型の魔石獣に犯させたり、
触手型の魔石獣に子宮内産卵させたりして楽しんだのだった。





それからしばらく後、私は海水浴の授業で競泳水着姿になり、男子生徒達を挑発して、その視線に興奮した後、夜中にスラムの浮浪者に金を払って逆レイプした後、学校の男子トイレに捨てられてた、使用済みコンドームを子宮に挿入しオナニーした。





その後、縁あって天上人の飛行船に招待された私は、天上人の特使、ミュンターという男に誘われたので、彼を逆レイプして搾り取った。根を上げたミュンターは、私の相手に丁度いいと、魔石獣化した犯罪者を紹介したので、私はその犯罪者も犯して精液を搾り取った。





そしてミュンターは、アーティファクトであるポータルリングを、私の
膣に挿入し、もう一つポータルリングと繋げて、子宮口を露出させた。
ミュンターは、私の露出した子宮をオナホ扱いした後、得体の知れない
何かを使い子宮を蹂躪し、私は卵管と卵巣責めで絶頂したのだった。



そんな私だが、今はとある任務のため、一人で荒野を歩いている。
ラニ達を連れて行かない理由は、その任務が危険だからではない。
一人の方が、好きな時にレイプや逆レイプを楽しめるからだ。
今回はどんな目に会うのだろうか、そんな事を考え歩いていると、
私の前方にはぐれの魔石獣が表れ、私を威嚇しはじめたのだ。

ん…丁度退屈していた所です。
少し相手をしてあげましょう。

魔石獣は私をか弱い少女と判断し襲い掛かって来たのだろうが、残念だった。
一応剣は抜いたのだが、その剣を使うまでもなく、拳の一撃で魔石獣の戦意は喪失した。
土下座して命乞いをする魔石獣を見て、私はムラムラと性欲が高まっているのを感じた。

ザッ

土下座する魔石獣を見下しながら、私はスカートの中に手を伸ばし、魔石獣に見せつけながら、下着を下ろして、片足から引き抜いていく。魔石獣は驚いたように顔を上げ、私のスカートの中を凝視する。

命まで取る気はありません。
少し楽しませて頂きます。

ウゴツ…
オオツ…

どキキ

何をされるのか理解できないと言った表情で私を見上げる魔石獣。しかしまだ命の危険を感じているのか、地面に這いつくばったままだ。私は魔石獣の正面に座り、両足を広げ、彼に割れ目を見せつけた。



私が小陰唇を左右に開くと、
愛液が糸を引いて滴り落ちる。

ほら、見えますか？
もう濡れてますよ♡

ウホッ…!!
オオオッ!!

ヒキキ

魔石獣は土下座の姿勢のまま鼻息を荒くし、
その視線を私のオマンコに釘付けにしていた。

はぁ♡



私はもっと良く匂いが伝わるよう、
魔石獣の鼻先をめがけて放尿した。

んっ…これでもまだ
興奮しませんか？

ウオオツ!!
オオウツ!!

ヒキキ

魔石獣は我慢の限界とばかりに飛び上がり、
私の背後からしがみ付いて来たのだった。



ニャァ

ウホッッ!!
オホッッ!!

ふふっ…いいですよ、
自由に犯して下さい♡

ヒキキ

魔石獣は勃起したペニスを見せつけるように、私の股下を通して、前へと突き出した。
太さは人間のペニスと同程度だが、私のヘソの上あたりまで届きそうな長さがある。
魔石獣は器用に腰を動かして、私のオマンコにそれをねじ込んで来たのだった。



ンツ…オツ!!
ガアアアツ!!

おおっ♡あっ…♡
いきなり奥までっ♡

魔石獣は何の配慮も遠慮も無く、私の子宮内部にまでペニスを突き刺した。
魔石獣や悪党は、私を肉穴としか思っていないような遠慮の無さが最高だ。
そして魔石獣は、そのまま子宮を貪るように、激しく腰を突き上げ始めた。

ジャ
ジャ
ジャ

ジャ
ジャ
ジャ

ジャ
ジャ
ジャ

ジャ
ジャ
ジャ

ジャ
ジャ
ジャ

ジャ
ジャ
ジャ

ジャ
ジャ
ジャ

ジャ
ジャ
ジャ

ジャ
ジャ
ジャ

ジャ
ジャ
ジャ

オゴツツ!!
グガアツ!!

はははは

はははは

ひっ!!?ぐっ...
あああつつ♡♡

トキキ

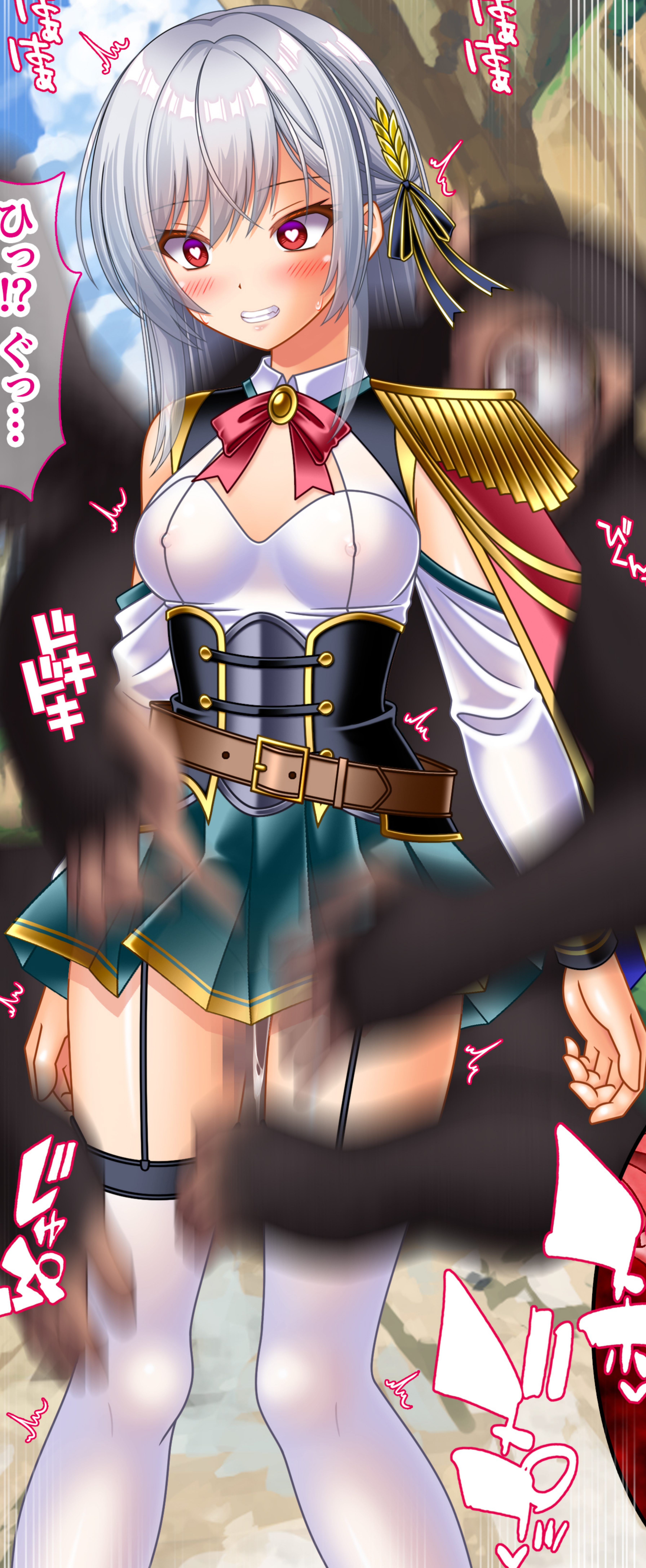
びん

ジャ

ジャ

ど

魔石獣はその翼を激しくばたつかせ、その体を上下へと揺さぶり、私の子宮を突き上げる。これは翼をもつ魔石獣にしか出来ない動きであり、人間では物理的に再現が出来ないのだ。ヤバイ、これは本当に気持ちいい。私は無防備な子宮が魔石獣に蹂躪される感覚に溺れた。



オホツ…!!

キイイツ!!

おっ♡おおっ♡
ああああっ…♡

魔石獣は私の子宮壁にペニスをこすりつけたまま、勢いよく精液を吐き出した。生暖かい精液が子宮に流れ込み、内側から圧迫していく感覚に、私は絶頂を迎える。醜い魔物に中出しされる背徳感は最高だ。私は体を震わせながら精液を搾り取った。

射精を終えた魔石獣は、ペニスを抜くと同時に、
逃げるようにその場から走り去っていった。

んっ…♡あっ…♡
逃げられたっ…♡

帰り道で遭遇したら、また犯して貰おう。
私はそんな事を考えながら、絶頂の余韻に
浸りつつ、溢れ出す精液を茫然と眺めた。



さて、そもそも私が何の任務でどこに向かっているかと言えば、話は数日前、王立騎士アカデミーのミリエラ校長からの話に遡る。どうやら国境付近の山村周辺で、邪教集団が暗躍しているらしく、その調査と被害者の救助、可能なら邪教の撃滅をお願いされたのだ。

それなら私が適任ですね！
どうぞお任せ下さい！！

最初は複数名での行動を提案されたが、それでは修行にならないし、ラニや仲間を危険に晒すし、何より自由にHな事が出来なくなってしまう。だって邪教だよ？絶対エロい事するに決まってる。私はミリエラ校長に、単独の方が動きやすいと言いくるめて、一人でこっそりと出発したのだった。



という事で、私の足で歩いて2日ほどで、目的地へと到着した。
この街道の先に小さな村が見える。妙な旗も立っているし、
その村は、もう邪教集団に支配されているのかもしれない。

どきどき



邪教集団が何をしてくるか、
今から楽しみですねっ♡



私は剣を抜いて、戦闘態勢でその村へと近づいていく。見た目は普通の剣だが、
練習用でボロボロになっており、あと数回も打ち合えば折れるかもしれない。
勿論、わざとだ。私は興奮に顔を緩ませながら、村の中へと足を踏み入れた。



私が村に入ると、恐らく見張りであろう山賊のような男が大声を上げた。
いくら私が可憐な美少女とは言え、騎士アカデミーの制服を身にまとい、
片手に騎士剣を構えているのだから、警戒されるのは当然の話だ。

おいおい、こんな所に
騎士アカデミーの女が、
一体何の用事だ!!

しかもたった一人で
やつて来たのかよ?
自殺志願者かテメエ?

…コイツ、良く見たら
とんでもねえ美少女だな?
こいつは楽しめそうだぜ!

安心しろ、お前は殺さねえ。
俺達の慰み者として
大事に使ってやる。
ありがたく思うんだな!!

ザッ

ザッ

邪教と聞いていたが、ここにいる連中は、どう見ても山賊崩れだ。
恐らく、彼らを扇動している黒幕が他にいるのだろう。
これは仕方ない、わざと敗北して捕まるしかない。私は胸躍らせた。

ぐおっ!! コイツ...っ!!
可愛い顔して強えっ!!

オラッ!! 団めッ!!
抑えつけるッッ!!

ふふっ...この程度ですか?
もっと私を楽しませて下さい♡

こんな山賊崩れ程度なら、何人束になつて襲い掛かろうが、私の敵ではない。
しかし、任務的にも、私の性欲的にも、ここで圧勝する事が目的ではないのだ。
私は山賊に致命傷を与えないように注意しながら、わざと戦いを長引かせる。

ザッ

ザッ

へへっ……ご自慢の剣が
折れちゃったなあ？
どうする、まだやるか？

ははは

へへっ……こつちには
村人の人質がいる事も
忘れんじやねえぞ？

どきどき

くっ……!! 卑怯な……
……ここまでか……

ははは

そうそう、これこれ。剣を折られ、山賊に人質を取られ、敗北する女騎士。
最高のシチュエーションに、私は顔が緩みそうになるが、何とか我慢する。
私は敗北を認めながらも、気高い表情を崩さないまま、山賊を睨みつけた。

ザッ

ザッ

ほら、村人の命が惜しきや
さつさと下着を脱げや。
ヤル事はわかつてんだろ？

こんな綺麗な騎士様が
俺達に輪姦されるとは…
勃起が止まらねえぜ！

ははは

どきどき

ザッ

下衆共めっ…!!
村人には手出ししないと
約束なさいっ…!!

ははは

小屋から引っぱり出された村人は、怯えた表情で私に視線を向ける。
これから何が起こるのかを理解した、絶望と期待に満ちた視線だ。
私はゆっくりと下着を脱ぎ、用意された粗末な木箱の上に上がった。

ザッ

なんだコイツ? まだ毛も
生えてねえじゃねえか!!

どうだ? 公衆の面前で
マンコを晒す気分は?

ははは

ははは

くっ…最低の
気分ですね…

私が台に登って足を開くと、周囲から賊共の歓声上がる。
人質達すらも、私の割れ目に目を奪われているようだ。
こんな大勢の前で晒し者になるのは初めてで興奮してしまう。

どキキ

どキキ

どキキ

どキキ

ザッ

ザッ

オラ、何やってんだよ？
開いて奥まで見せろや！！

ほらほら、早くしねえと
人質が死にまうぞ？

ははは

ははは

うぐっ…!!こ…
これでいいですか…？

ゴキキ

私は悔しそうに歯を食いしばりながら、小陰唇を左右に開く。
ピンク色の花のようなオマンコが開き、衆目に晒される。
興奮で愛液が漏れそうになるのを、私は必死に我慢していた。

はあ♡

ザッ

ザッ

ぶん

ぶん